

①市民の安全・安心を守り、島原らしい特性を活かした、コミュニティの中核としての庁舎の考え方

## すべてが市民交流の場となる庁舎「重層する大手デッキ」をつくる

「大手」は島原の地域の魅力である豊かな「水」「緑」「歴史」の中心的場所であり、それらを見渡し島原の良さを実感しながら交流や協働ができる場を「大手デッキ」と名付け、グランドレベルの広場と各階のデッキが重なり連続する構成の庁舎を提案します。

### 1 島原を見渡す「四方面面」の低層庁舎

- ・四方に開放的で正面性がある地域の安全・安心のシンボル
- ・環境となじむ、4層に高さを抑え水平に分節したやさしいデザイン
- ・どちらからも人々を迎え入れるデザインとした開かれた庁舎

### 2 「交流を誘発」する施設の構成

- ・待合を屋外デッキと連続させた内外自由に利用できる川床デッキ
- ・市民と行政がカウンター以外でも自由なサービスができる構成
- ・多目的ホール・会議室など、市民参画施設としても活用しやすい配置

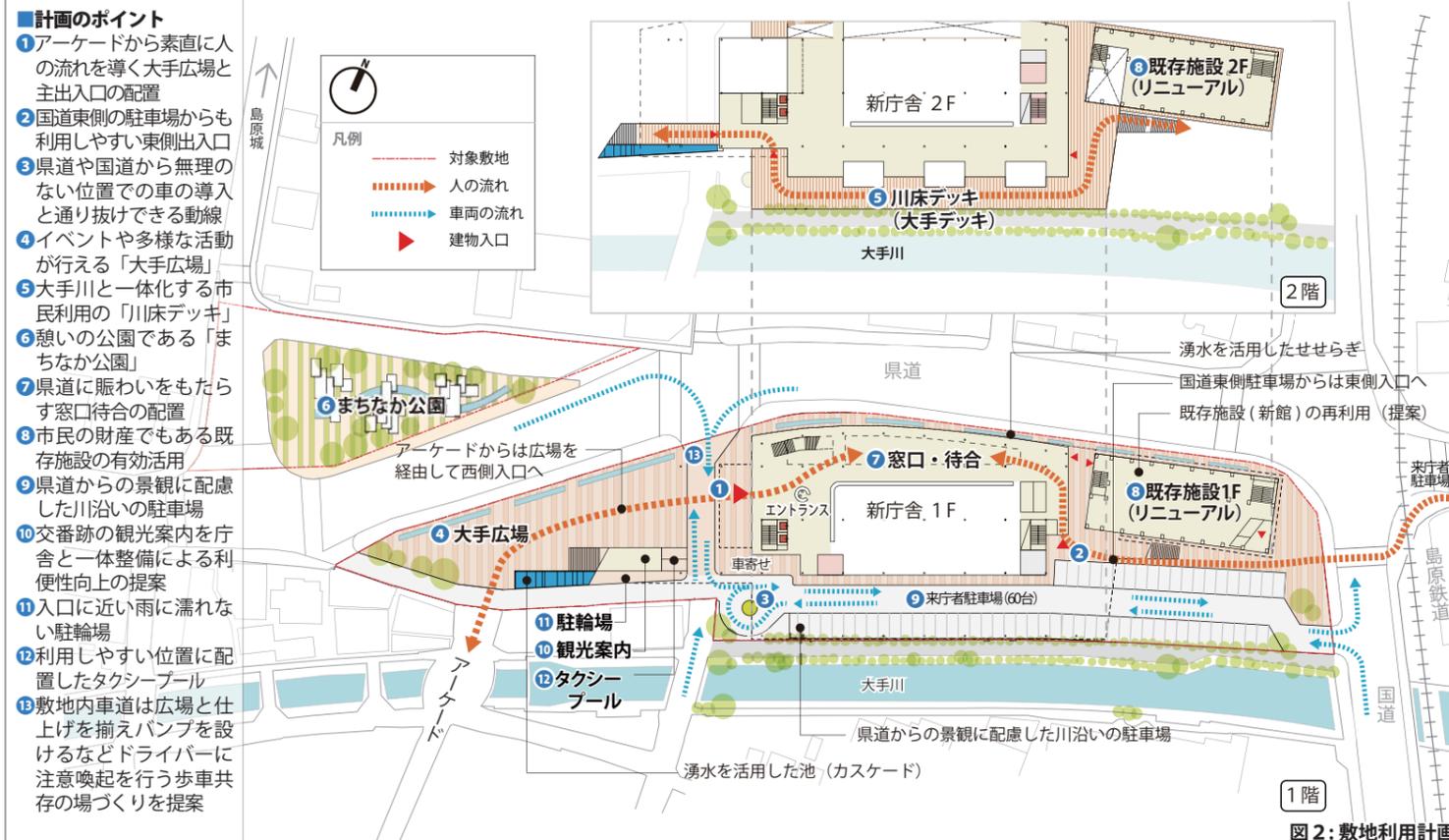
### 3 「島原らしい」湧水を活かした環境づくり

- ・せせらぎ・カスケード・川床デッキなど水の都にふさわしい景観
- ・島原ならではの湧水熱利用空調ほか環境共生システム
- ・大手デッキが環境装置化した、全国のモデルとなるグリーン庁舎



図1:重層する大手デッキのイメージ

## 周辺環境を活かす敷地利用計画



## 市民交流を活性化する3つの広場

市民が集いやすい大手に賑わいを与えるため性格の異なる3つの交流空間を提案します。

- 「大手広場」** / イベントや活動の広場  
 市内で最も人通りが多いアーケードの出入口であり集いやすい場所ですので、多様なイベントも行える「大手広場」を提案します。イベント時は庁舎のデッキがステージの屋根となります。例えば精霊船の練り歩きや不知火まつりの阿波踊りなどにより、まちなかの賑わいを取り戻します。
- 「川床デッキ」** (大手デッキ) / 市民協働の広場  
 水の都だからこそ川の景観も活用すべきと考えます。大手川に面した2階のデッキを、敷地の東西を結ぶ「川床デッキ」として整備します。幅が狭い敷地を川向うまで借景とすることで空間のゆとりを感じさせます。会議室なども配置することで市民の協働空間としても位置付けます。
- 「まちなか公園」** / まちの憩いの公園  
 「島原城」エリアと「鯉の泳ぐ町」エリアの中間点ですので、休憩にも利用できる、安らげる場づくりを提案します。植栽による木陰やベンチ、湧水を活用した親水空間などによる「まちなか広場」と位置付けます。



図3:大手広場



図4:川床デッキ



図5:まちなか公園

## 旧庁舎の活用/オプション提案

- 市民の財産を有効活用する**  
 これからのまちづくりは、単に解体新築だけでなく、既存の資産の活用も重要です。4層の新館を2層に減築することで、荷重を削減しIS値を向上させるとともに、残り2層分の解体費用や杭の撤去費用分を活用して約1000㎡程度のスペースの再利用を提案します。(全て解体して広場などとしての運用も可能です。)
- 多様な活用の提案**  
 「大手」のポテンシャルを高めるため、多様な市民が活用できる場づくり  
 ・例えば単独で福祉関連窓口とすれば利用者のプライバシーを高められます。  
 ・障がい者の自立支援促進のための喫茶やパンの販売等の授産施設として  
 ・市民の生涯学習や展示・発表、NPOの活動スペースとして  
 ・高校が多い文教地区の学習スペースなど
- 新館再利用提案の背景**  
 ・2次診断で梁間方向はほぼIS値0.7以上、桁行方向は0.38以上ですので、2階建への減築でIS値0.7以上が期待できます。(設計時に再検証します)  
 ・既存躯体のコンクリート強度も18N/m<sup>2</sup>と高く、今後の使用にも充分耐えられます。  
 ・空調設備はパッケージ方式に交換済みですので、そのまま利用可能です。  
 ・電気室のある本館を先行解体するため、工事期間中の既存新館用仮設電源を流用可能です。

備考

1. 提案の範囲は、別紙(2)技術提案書の提案範囲を参照して下さい。
2. 提案は基本的な考え方を簡潔に示して下さい。
3. 文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ、パース(透視図)は使用できますが、設計内容が具体的に表現された設計図面、模型、模型写真は使用不可とします。提出者を特定できる表現(具体的な会社名等)を記載しないでください。